

書写の里・美術工芸館で 「書寫山圓教寺 一歴史を語る美術と工芸」



「書寫山圓教寺参詣図」江戸時代中期

書寫山圓教寺は平安時代に性空上人によって開かれた天台宗の古刹で、上人は花山法皇らとともに途絶えていた西国三十三所巡礼を再興した人物の一人とされています。こうした所もあって、西国巡礼第27番札所でもある圓教寺には今なお参拝者が絶えません。西国巡礼が始

まって今年が1300年にあたるといわれることから、書写の里・美術工芸館で春季特別展示「書寫山圓教寺 一歴史を語る美術と工芸」が開かれています。

書寫山圓教寺と密接な距離にある同館では、平成6年の開館以来、圓教寺の協力です写塗、絵画、書、仏具、仏像など、さまざまな作品の展示会を開いてきましたが、今回はそれらを網羅した包括的な展示会になっています。

出品点数は約80点。参詣図、曼荼羅、仏画、縁起絵巻などの「絵画」、縁起、藩主和歌などの「書」、縁起、参詣図、観

音図、守札などの「摺物」、仏具、漆器類（書写塗）、鬼面などの「什物」で、西国巡礼に関連した作品や資料も数多く並んでいます。

展示物の一例を挙げると、近年、開山堂修理の際に発見され、当初は性空上人の御真骨が納められていたと考えられている鎌倉時代後期の石造りの「五輪塔」、江戸時代中期に描かれた「書寫山圓教寺参詣図」、上人に仕えて山を守護した乙天、若天が上人とともに描かれている江戸中期の「性空上人乙天若天図」、毎年、修正会で用いられる高村光雲・六角紫水作の「修正会鬼面」などで、巡礼らに配られたと思われる摺物の「瘡瘡守護」と書かれた守札なども見られ、古くから参拝者が多かった圓教寺の歴史や賑わいぶりが偲ばれます。

会場にはこうした作品のほか、圓教寺の建造物や仏像の写真パネルも展示されており、まさに“圓教寺のすべてが揃った”展示会。担当学芸員の岡崎美穂さんも「まずは展示会で書寫山圓教寺への理解と関心を深め、新緑が美しい書写山山上で実際の圓教寺をご覧いただく。そうなればうれしいですね」と話しています。

※詳細は7ページをご覧ください。

問書写の里・美術工芸館

☎079-267-0301



高村光雲・六角紫水作「修正会鬼面」大正12年



鍋木清方
「茶を献ずるお菊さん」
(全生庵蔵)

姫路文学館で 「怪談皿屋敷のナゾ 姫路名物お菊さん」

姫路を代表する伝説の一つである「播州皿屋敷」。時代は室町末期。姫路(姫山)城主の小寺家のお家騒動に巻き込まれ、悪臣たちによる謀反の企てを主家に告げて防いだ奉公娘のお菊が、家宝の皿を一枚紛失したとの罪を着せられて惨殺の上、井戸に投げ込まれます。以来その井戸からは夜ごと「一枚、二枚」と皿を数えるお菊の恨めしげな声が……というお馴染みの話で、浄瑠璃や歌舞伎となって評判を呼んできました。実はこれと似た話は江戸の「番町皿屋敷」をはじめ、全国各地に50近く残っているそうです。

まさに「皿屋敷のナゾ」ですが、エピソードの解釈やディテールに違いこそあるものの、どうしてお菊という

奉公娘を主人公にした同じような伝説が各地に残っているのか？ 井戸や皿が意味するものは何なのか？ といった「ナゾ」に思いを巡らせつつ、怪談の枠だけにはとどまらぬその豊かな世界を見渡そうというのが本展の趣旨だそうで、「多彩な展示物をご覧いただき、皆さんと一緒に皿屋敷やお菊さんの

ナゾ、その魅力について考えていければと企画しました」と担当学芸員の甲斐史子さん。

その言葉通り、展示されている資料は播州における皿屋敷伝承を伝える『西播怪談実記』や『播州皿屋敷細記』などの郷土史料、志賀直哉『暗夜行路』や京極夏彦『数えずの井戸』などの文学、昨年94年ぶりに発見された鍋木清方の幽霊図「茶を献ずるお菊さん」などの絵画、岡本綺堂『番町皿屋敷』や三遊亭圓朝『菊模様皿山奇談』などの芸能と多岐にわたり、福岡県に伝わる「碓井皿屋敷」伝説の“お菊の打掛”などの実物資料も展示されています。

また副題に「姫路名物お菊さん」とあるように、明治から大正の頃にかけて姫路の名所、観光材料として人気を呼んだ「お菊井戸」「お菊神社」「お菊虫」にまつわる資料も展示されており、内容は盛りだくさん。名前だけはよく知っていた「怪談皿屋敷」や「お菊さん」のナゾと魅力に触れることができる展示会のようなのです。

※詳細は7ページをご覧ください。

問姫路文学館 ☎079-293-8228



お菊の打掛
(福岡県嘉麻市
教育委員会蔵)